



仙台市科学館 蒲生調査レポート 速報版

No.8

〒981-0903 仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館 事業係
TEL:022-276-2201 FAX:022-276-2204
<http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/>

2011.6.3

樹種毎にみた3.11地震による津波被害の概況(2) 蒲生干潟のマツ・ハマナス・ニセアカシア

概要

4月13日と5月12日の現地調査の比較から津波被害の概況を整理した。4月13日の段階ではクロマツ個体は外観からは被害を認めることができなかった。津波で数日間海面下にあったはずであるが葉のネクロシスも認められなかった。一方ハマナスは地上から20cmを越える高さにあった葉が全て変色していた。砂地からわずかに萌芽が認められた。5月12日になると、クロマツ個体の大半の葉が茶変していた。一方ハマナス小林分では砂の移動に伴い、4月13日時点よりも根系が露出するようになっていたものの旺盛な萌芽が認められた。蒲生干潟で昨年度見られた低木状のニセアカシアは潰滅した。

「再生のマツ」あるいは「復興のマツ」と名付けたかったが・・・。

4月の調査でガレキしかない蒲生干潟に鮮やかな緑の葉をつけたクロマツを見出したとき、科学館職員からは「蒲生干潟の復興のシンボルになる！」と歓声が上がった。ちょうど岩手県で津波から生き残った防潮林のクロマツがマスコミを賑わせている頃と時期が一致する。むこうが「奇跡のマツ」ならこちらは「再生のマツあるいは復興のマツで良いのではないか」そんな会話ががあった。Fig.1は4月13日の写真である。ところが5月12日に同地を訪れてみると、状況は大きく変わっていた。ほぼ全ての葉が茶変(Fig.2)していたのである。

旺盛なシュートを伸ばすハマナス

その一方で5月になると、ハマナスは根茎から旺盛にシュートを伸ばし始めていた。Fig.3が、その様子を示している。既にマーキングをして経過観察を開始し始めたが、本稿では詳細な内容は取り上げない。根茎1mあたり9本から12本程度のシュートが認められた。



Fig.3 根茎から芽を伸ばすハマナス

潰滅したニセアカシア

昨年8月に蒲生干潟を調査した際、調査ルート上で8個体のニセアカシアを確認した。樹高80cmから1.2m程度であった。Fig.4が当時のニセアカシアの写真(2010.8.21撮影)である。ところが津波後は同地でニセアカシアを見出すに至っていない。津波によって潰滅的な被害を受けたものと推察される。



Fig.4 2010年8月に撮影したニセアカシア



Fig.1 4月13日のクロマツ



Fig.2 5月12日のクロマツ

(長島康雄)